

薬事情報センターに寄せられた質疑・応答の紹介（2012年3月）

【医薬品一般】

Q：神経痛で、一般用医薬品の「再春痛散湯エキス顆粒」を使っている。同じ成分の医療用医薬品はあるか？（一般）

A：「再春痛散湯エキス顆粒」の成分は、痛散湯水製乾燥エキス（成分：マオウ、キョウニン、カンゾウ、ヨクイニン、ポウイ、動物胆より製したエキス）、マオウ、ヨクイニン末、カンゾウ末、ポウイ末で、効能・効果は「発熱して、諸関節や各所の筋肉がはれて痛むものの神経痛、リウマチ、肩痛、筋肉痛、関節炎」である。医療用に同じ成分の漢方薬はないが、類似処方として、関節痛、神経痛、筋肉痛等に使用する麻杏薏甘湯（成分：ヨクイニン、マオウ、カンゾウ、キョウニン）がある。

Q：更年期障害でホルモン補充療法により、ほてりや心悸亢進などは良くなったが、抑うつ気分が改善しない。どうしたら良いか？（一般）

A：女性は加齢とともにエストロゲン濃度が低下し、閉経前後5年の更年期において更年期障害（自律神経失調症状、精神神経症状）が発現する。精神神経症状の抑うつは、エストロゲン濃度の低下によりモノアミンオキシダーゼの分解が抑制され、セロトニン濃度が低下すること、およびエストロゲンの関与以外にも心理的・環境的な要因が関与した精神的ストレスも原因となっていることが多い。精神神経症状にホルモン補充療法はあまり効果なく、抗不安薬やSSRI（選択的セロトニン再取り込み阻害薬）等が用いられる。

Q：妊娠中の感冒に漢方薬を使いたいですが、何が良いか？（薬局）

A：妊娠中の感冒には香蘇散を第1選択薬とし、必要最小限の短期間の使用に留める。頭痛、頭重、悪寒、無汗の時期には香蘇散を使用し、咳嗽、多痰、鼻汁、鼻閉の時期には参蘇散を用いる。鼻汁・水溶性の痰には小青竜湯、乾性咳・粘稠な痰には麦門冬湯を使用する。ただし、現在使用されている漢方薬の妊婦への安全性が確立されているわけではない。妊娠中の母体は通常虚証と考えられ、実証に用いる葛根湯や麻黄湯などの発汗剤は原則として避けるが、証に適合して投与する時は、過度の発汗を避け、虚脱に陥ることのないよう注意し、長期投与は避ける。

Q：慢性副鼻腔炎で14員環のマクロライド系薬を少量長期使用する場合、投与期間はどのくらいか？（薬局）

A：慢性副鼻腔炎に対するマクロライド療法のガイドラインでは、成人は1日エリスロマイシン400～600mg、またはクラリスロマイシン200mg、またはロキシスロマイシン150mg、小児は1日エリスロマイシン10mg/kg、またはクラリスロマイシン5mg/kgを基準として症例により適宜増減する。3ヶ月投与で全く無効な症例は速やかに他の治療法に変更し、有効症例でも連続で3～6ヶ月で一度中止し、症状再燃時に再投与する。小児にはできるだけ投与期間を短縮し、2ヶ月で有効性を認めなければ中止する。

Q：4ヶ月児にタミフルTM（オセルタミビルリン酸塩）が処方されたが、使用しても問題ないか？（一般）

A：添付文書では、「1歳未満の患児（低出生体重児，新生児，乳児）に対する安全性は確立していない」となっているが，日本小児科学会は，2009/10シーズンに日本でタミフルTM投与を受けた生後3ヶ月未満の乳児・新生児について，短期的な副作用報告はほとんどなかったと報告している。ただし，長期的な影響については今後検証が必要である。

【安全性情報】

Q：抗精神病薬のセロクエルTM（クエチアピンプマル酸塩）を服用中に肺塞栓症を起こし入院した。この薬で起こることはあるのか？（一般）

A：抗精神病薬で静脈血栓塞栓症（VTE：Venous Thromboembolism）が起こることがある。クロルプロマジンを中心とする定型抗精神病薬だけでなく，クロザピン（クロザリルTM）を中心とした非定型抗精神病薬の服用例にVTE（肺塞栓症や深部静脈血栓症を含む）の報告が多数ある。発現機序は不明だが，血小板のセロトニン5-HT_{2A}受容体を介した血小板凝集能の亢進や，薬剤性の全身性エリテマトーデスなどの関与が示唆されている。また，抗精神病薬の副作用の一部（鎮静や体重増加等）は静脈血流量滞に関与し，VTEのリスク因子と考えられている。不動状態，長期臥床，肥満，脱水状態等のリスク因子を有する患者へ投与する場合には注意し，息切れ，胸痛，四肢の疼痛，浮腫等が認められた場合には，投与を中止するなど適切な処置を行う。

Q：タプロスTM（タフルプロスト）点眼液を使用している。あふれた液は使用後に拭き取るように言われたが，なぜか？（一般）

A：タプロスTM（タフルプロスト）点眼液は緑内障治療に使用されるプロスタグランジン製剤である。プロスタグランジン製剤は，虹彩（黒眼）や眼瞼への色素沈着（メラニン増加）や眼周囲の多毛化（まつ毛が太く，長くなる等）が起こる可能性がある。眼瞼の色調変化や眼周囲の多毛化を防ぐため，あふれた液は清潔なガーゼやティッシュで拭きとるか洗顔する。眼瞼の色調変化や眼周囲の多毛化は，投与中止後は徐々に消失・軽減する可能性があるが，虹彩（黒眼）の色調変化は，点眼を中止しても元に戻らない。片眼のみ点眼している場合は，左右の黒眼の色に差が出てくる場合もあるので注意する。

Q：10ヶ月児に蜂蜜を食べさせたいが，大丈夫か？（薬局）

A：蜂蜜にはボツリヌス菌の芽胞が含まれていることがあり，乳児が摂取して，芽胞が腸管内で発芽・増殖し，産生された毒素が吸収されて乳児ボツリヌス症を発症する可能性がある。潜伏期間は3～30日。臨床症状は，大半の患者は便秘状態が数日続き，脱力状態になり，哺乳力が低下し泣き声が小さくなる。特に，顔面は無表情となり，頸部筋肉の弛緩により頭部を支えられなくなる。眼瞼下垂，瞳孔散大，対光反射が緩慢になるなど，ボツリヌス食中毒と同様の症状が認められる。頑固な便秘のために，便から長期間（1～2ヶ月）菌が排泄されることもあり，二次感染に注意が必要である。治療はまれに抗菌薬投与による除菌を行うこともあるが，抗毒素療法は一般には行わない。ヒトの腸内で芽胞が発芽・増殖するのは生後2週～8ヶ月の乳児で，これ以外の年齢では一応安全とされる。予防対策として「1歳未満の乳児には蜂蜜を摂取させない」ように注意喚起されている〔厚生省（現厚生労働省）1987年10月通知〕。

【その他】

Q：食欲抑制スプレーの「スリーエフ」に、食欲抑制作用はあるのか？（一般）

A：「スリーエフ」は舌下にスプレーするダイエットサプリメントで、ダイエット中のストレス等による過度の空腹感や食欲を低下させると言われ、個人輸入で使用されている。主成分はマメ科植物のグリフォニア・シンプリシフォリア (*Griffonia simplicifolia*) で、セロトニンの前駆物質であるL-5-ヒドロキシトリプトファンを含有し、セロトニンによる空腹感の低下や食欲の低下によりダイエット効果を期待できる。他にはクラマス・アルジー (*Klamath algae*) (血中のドーパミンを増加)、ガラナ (*Guarana*) 流体抽出物、センテラ (*Centella*)、タラクサカム (*Taraxacum*)、アーティチョーク (*Artichoke*) を含有する。

Q：散剤を分包した後、分包機を粉末乳糖で洗っているが、付着が多い。他に何を使用したら良いか？（病院薬局）

A：結晶乳糖，炭酸水素ナトリウム，酸化マグネシウムなどが使用される。